

平成 26 年度

事 業 報 告 書

一 般 財 団 法 人

東 京 都 高 等 学 校 野 球 連 盟

1 事業の内容

(1) 高等学校野球の普及、振興、指導および監督

①年度内に予定していた理事会は計画通り 7 回を実施し、ほぼ理事会実施前に常務理事会を開催。更に、各部会を開き、審議・検討を行い、健全な高校野球育成を発展に努めた。

②責任教師・監督会にて、野球要項を再度熟読し、中学生の体験入部の取扱いを確認した。また、中体連とも連携を取り、開会式での始球式も実施した。

③毎年の最重要課題であるフェアプレーの徹底を指導した。具体的には、加盟校の指導者、並びに部員の偵察行為を全面的に禁止した。(ビデオ撮影など) 不正があった場合は、責任教師に厳しく指導した。また、バックネット裏付近での試合観戦も合わせて禁止した。学校関係者より申請があった場合撮影許可のリボンを貸与した。ほぼ周知徹底はできつつあるが、次年度も継続的にフェアプレーの精神を伝えたい。

④不祥事件の根絶に向け、責任教師、監督会議の席上で、加盟校への指導を行ってきた。結果は、本年度は 61 件(日本高野連 30 件、東京都高野連止まり 31 件)の不祥事件があり、根気よく加盟校への危機管理の認識を伝達しなければならない。残念なことに一年に数回の不祥事件報告をする学校もあり、抜本的な体制改善を促さざるを得ない学校も存在した。根気強く、体罰のない健全な指導を今一度、周知徹底する必要がある。

⑤ホームページは、コンテンツの充実を図り、現在では定着している速報システムなどにより、スピード感を持って情報を提供した。また、新たにバナー提供を求め協賛をいただいた。(1社:(株) Wood Stock【高校野球ドットコム】)

⑥責任教師会議においては、8校を除く 269校が参加。様々な懸案事項を詳細に説明し、理解を求めた。特に本年度実施の途上国支援東南アジア遠征(ミャンマー・シンガポール)での加盟校への詳細説明や支援物資参加の賛同など理解を求めた。

(1) 不祥事件の根絶に向けて指導した。特にいじめや指導者の体罰に関しては重点的に説明した。高校野球の理念を今一度再認識させるとともに健全な野球部の運営・管理を指示した。

(2) 部員登録の締切りの期日を守らない加盟校が、まだまだあり根気強く継続的に理解を求めたい。

(3) 途上国支援東南アジア遠征(ミャンマー・シンガポール)についての詳細な説明を実施。21世紀を生きる若者がグローバルな視点でアジア諸国に目を向け、幅広い視野のもと世界で活躍できる人材を育成することを目的とし加盟校に説明した。選考基準は、第96回大会のベスト16以上で人物・国際交流に興味関心のある者。責任教師・監督より推薦が受けられる者。さらに、加盟校からの支援物資を募る。具体的には、New Ball 3個を全加盟校から寄贈していただき、両国への支援物資とすることを説明し、賛同を頂いた。

⑦本年度は和歌山県智辯学園和歌山高校 高嶋 仁 監督を講師として迎え、甲子園最多勝利監督からのメッセージをいただいた。高校野球の指導者として必要なこと、さらに現在強豪校として君臨する同校の歴史、監督としての経験談など多岐にわたるご

講演内容であった。東京の高校野球の指導者は、甲子園にかかわる講話に感銘を受け、大盛況であった。

⑧加盟校が270を超え、審判員の確保には非常に苦勞した。若い世代の審判員の育成が急務である。本年度春季大会一次予選において、学生審判の導入を実施。学生審判講習を受講した48名が塁審としてジャッジした。特に大きな問題はなく、次年度以降も継続的にこの制度を有効に活用する。学生審判経験者から東京都の審判員が育つことを熱望する。登録審判員の方も各大会の度に、審判講習会を実施し、技術の向上に努めた。連盟としても、審判員の増員に向け、推薦書の依頼を加盟校に向けた。今後審判部と連携を密にして対策を検討したい。

⑨一般財団法人化に伴い、還元事業として、加盟校へは秋季大会抽選時に背番号を配布。更に秋季大会一次予選時に硬式試合球3ダースを加盟校に配球した。

(その中から3個を支援事業として東南アジア遠征ボール寄贈に充てる。)

(2) 高等学校野球大会ならびに試合の開催及び協力

①平成26年度春季東京都高等学校野球大会

一次予選は、24の会場に分かれ、207チーム（連合チームがあるため）が参加。3月15日（土）～23日（日）で実施。48の代表校が、4月1日（火）からの本大会に出場。本大会は4月1日（火）～14日間。決勝は27日（日）で、96校が神宮第二球場を含め8球場を使用し、開催。優勝校は成立学園高等学校（初優勝）。準優勝は関東第一高等学校。

②第96回全国高等学校野球選手権大会東西東京大会

朝日新聞東京本社と共催で、7月5日（土）から29日（火）までの25日間、神宮球場をはじめとする、東西13の球場を使用し開催。東東京大会は、二松學舎大学附属高等学校（初優勝）が優勝。西東京大会は、日本大学鶴ヶ丘高等学校（6年ぶり3回目）が優勝。両校が東西東京代表として甲子園出場の権利を得た。

③平成26年度秋季東京都高等学校野球大会

一次予選は24の会場に分かれ、254チーム（連合チームがあるため）が参加。9月6日（土）～9月23日（火）で実施。48の代表校が10月11日（土）からの本大会に出場。本大会は10月11日（土）から9日間。決勝は11月9日（日）で、48校が神宮・神宮第二球場を含め6球場を使用し開催。

なお、本年度も準決勝・決勝を神宮球場で行った。本年度も東都大学野球入替戦を高校野球終了後に開催。優勝校は東海大学菅生高等学校（18年ぶり2回目）。準優勝は二松學舎大学附属高等学校。

④途上国支援東南アジア遠征（ミャンマー・シンガポール）

東京都高等学校野球連盟の選抜チームでの海外遠征は3年ぶり。平成26年12月21日（日）から30日（火）までの10日間。

ミャンマー代表チーム2試合、シンガポール代表チーム1試合を実施。ミャンマー支援事業では、在ミャンマー大使館と連携し、外交樹立60周年記念事業として開催。両国とも現地大使館関係、日本人会の協力のもと無事支援事業を実施できた。両国の

スポーツ省、野球連盟より多大なる支援に感謝された。今後も機会があれば、継続的な支援事業を行い、近隣の連盟とも連携し、さらなるネットワークの拡大を推奨したい。

(3) 高等学校野球の調査・研究

①平成26年度の指導者研修会講師は和歌山県智辯学園和歌山高校 高嶋仁 監督をお招きして講演をいただいた。甲子園最多勝利監督の高校野球にかける情熱に指導者は深い感銘を受け、自校の今後の指導に大いに参考となる内容で実りある講演会であった。

(4) 高等学校野球選手、部員などのスポーツ障害予防・健康増進

各大会の準々決勝より、理学療法士を球場内に常駐させ、選手のケアをさせた。選手権大会には準決勝より、理学療法士の他に看護師もお願いし、選手のみならず、応援生徒の熱中症対策を行った。生命に関わるような大きな事故もなく、選手の投球禁止などの適応者もなかった。また、東南アジア遠征に理学療法士を帯同させ、選手の健康管理と水分補給などのメディカル部門の充実を図った。選手・応援生徒の健康管理体制に関しては軌道に乗っているとと言える。継続的な取組をしていきたい。

(5) 高等学校野球に関する講習会・研究会の開催

学生審判の講習会を2月23日(日)に初めて実施した。会場校の24校から2名の学生審判を参加させ、基本となるジャッジの講習を実施した。基本的に自校での経験がある参加者が複数いたため、思っていたより高いレベルでの講習内容となった。次年度以降も継続的な取り組みを行いたい。

3月1日(土)2日(日)の2日間においては、関東地区高等学校審判講習会を神宮球場・神宮室内競技場で実施した。関東の一都七県から約40名の審判が参加し、(公財)日本高等学校野球連盟より日野審判副委員長が指揮を執って、レベルの高い充実した講習会であった。

東京の登録審判員の講習会は3月9日(日)、6月22日(日)、8月31日(日)の3回を実施。審判員の技術向上のために積極的な参加があった。

記録員・アナウンス研修会は、6月29日(日)に実施。朝日新聞社の協力も得て、加盟校の代表校に丁寧な指導した。アナウンス研修は現役のアナウンサーが実技も踏まえて指導し、実践的な放送技術指導を行い、とても実のあるものとなった。指導者研修会は、12月6日(土)に実施。和歌山県智辯学園和歌山高校 高嶋仁 監督をお招きして、様々な経験にまつわる貴重な講演をいただいた。

(6) 野球を通じた国際交流、国際相互理解の推進

東京都高等学校野球連盟の選抜チームでの海外遠征は3年ぶり。平成26年12月21日(日)から30日(火)までの10日間。

選手18名 役員17名 (日本高等学校野球連盟事務局員1名、愛知県高等学校野球

連盟副理事長 1 名含む) 添乗員 2 名 総勢 37 名

ミャンマー代表チーム 2 試合、シンガポール代表チーム 1 試合を実施。ミャンマー支援事業では、在ミャンマー大使館と連携し、外交樹立 60 周年記念事業として開催。両国とも現地大使館関係、日本人会の協力のもと無事支援事業を実施できた。両国のスポーツ省、野球連盟より多大なる支援に感謝された。今後も機会があれば、継続的な支援事業を行い、近隣の連盟とも連携し、さらなるネットワークの拡大を推奨したい。今後の国際交流は、経済的に計画的な積み立てのもと 3 年から 4 年を目安に実施したい。高校生の時期に他国の文化に触れ、グローバルな視野を養うことは非常に価値のあるものであると実感する。21 世紀の混乱した社会を乗り切るためには、高校生段階から幅の広い思考と行動力を備えた教育活動は必要不可欠であると考え。野球を通じて世界を知り、実社会に目を向けた若者の育成に努めたい。

(7) 高等学校野球に関する関係諸団体との協力・提携

東京都中体連、関東地区高野連、全国九地区高野連、並びに日本高野連とは密接な関係を持ちながら、各行事を遂行した。関東地区高等学校野球連盟とは、様々な意見交換を交わし、関東地区高等学校野球連盟の行事の中では、東京都高野連が初めて主管として 3 月 1 日 (土)・2 日 (日) に関東地区審判講習会を神宮球場・神宮室内競技場にて実施した。また、東京都中体連とも継続的な連携を維持して選手権大会の始球式も中学生に経験してもらっている。円滑な関係を保ちつつ諸団体と建設的な意見を交わし、さらなる関係構築に努めたい。

(8) その他この法人の目的達成に必要な事項

一般財団法人化に伴い、公認会計士指導の元、様々な規則の充実を図った。今後も適宜必要な事項への検討を行う。

硬式部 277 校 部員数約 11,000 名

諸会議の状況

1、加盟校責任教師会議	5月24日(土)	1回
1、常務理事会	1月31日(金)、5月9日(金)、12月2日(火)、	3回
1、選手権運営委員会	5月26日(月)、6月3日(火)	2回
1、理事会	2月6日(木)、2月19日(水)、4月27日(日) 5月13日(火)、8月24日(日)、11月9日(日)、 12月8日(月)	7回
1、選手権委員会	6月9日(月)、7月1日(火)	2回
1、抽選会	2月23日(日)、6月21日(土)、8月30日(土)、 10月7日(火)	4回
1、球場主任会議	2月6日(木)、3月11日(火)、6月24日(火)	3回
1、審判講習会	2月23日(日)、3月1日(土)、3月2日(日)、 3月9日(日)、6月22日(日)、8月31日(日)	6回

1、審判幹事会	3月6日(木)、6月19日(木)、8月28日(木)	3回
1、評議員会	2月19日(水)	1回
1、監査	1月28日(火)、2月3日(月)	2回
1、途上国支援東南アジア遠征 (ミャンマー・シンガポール) 国際交流委員会	1月20日(月)、2月25日(火)、4月19日(土)、 9月9日(火)、9月29日(月)、10月9日(木)、 11月2日(日)、11月23日(日)、 12月7日(日)、12月15日(月)	10回
1、開会式検討委員会	6月2日(月)	1回
1、記録員アナウンス研修会	6月29日(日)	1回
1、審判割当会	6月28日(土)	1回
1、審判員大会中間報告会	11月16日(日)	1回
1、審判員ブロック戦中間報告会	10月8日(水)	1回
1、指導者研修会	12月6日(土)	
	智辯学園和歌山高校 高嶋 仁 監督	1回
1、硬式部・軟式部連絡会	12月9日(火)	1回
1、一次予選会場校責任者会議	2月12日(水)、7月24日(木)	2回

軟式部 75校 部員数約 1,800名

諸会議の状況

1、生徒代表者会議	2月16日(日)	1回
1、記録講習会	2月16日(日)	1回
1、審判講習会	3月21日(金)	1回
1、総会	4月6日(日)	1回
1、理事会	1月11日(土)、2月16日(日)、4月6日(日)、 5月3日(土)、6月15日(日)、7月21日(月)、 7月31日(木)、9月28日(日)、12月6日(土)	9回

本連盟主催大会

春季大会

支部予選：3月下旬

都大会：4月13日(日)、20日(日)、29日(火)、
5月3日(土)

夏季大会

7月21日(月)～31日(木)

秋季大会

支部予選：8月下旬

都大会：9月7日(日)、21日(日)、23日(火)、
28日(日)、10月1日(水)